

到達目標	評価基準				
	S 到達目標を極めて高い水準で達成	A 到達目標を高い水準で達成	B 到達目標を標準的な水準で達成	C 到達目標を最低限の水準で達成	D 到達目標を未達成
人の動きの記述および力の定量化のために必要な知識を身に付け、単純な動きをキネマティクスおよびキネティクスで説明できる。	『物理量』『並進運動と回転運動』『並進運動と回転運動の力学』『流体力学』の基礎的な知識を身に付け、単純な動きを説明できる。	『物理量』『並進運動と回転運動』『並進運動と回転運動の力学』の基礎的な知識を身に付け、単純な動きを説明できるが、『流体力学』の理解は不十分。	『物理量』『並進運動と回転運動』の基礎的な知識を身に付け、単純な動きを説明できるが、『並進運動と回転運動の力学』『流体力学』の理解は不十分。	『物理量』の基礎的な知識を身に付け、単純な動きを説明できるが、『並進運動と回転運動』『並進運動と回転運動の力学』『流体力学』の理解は不十分。	『物理量』『並進運動と回転運動』『並進運動と回転運動の力学』『流体力学』の基礎的な知識をいずれも身に付けていないため、再学習が必要。
骨格筋と関節の特性を理解して、単純な動きの特性を説明できる。	『骨格筋の収縮メカニズム』『骨格筋の力学特性』『骨格・関節構造』『関節可動域』について全て説明できる。	『骨格筋の収縮メカニズム』『骨格筋の力学特性』『骨格・関節構造』『関節可動域』について8割程度は説明できる。	『骨格筋の収縮メカニズム』『骨格筋の力学特性』『骨格・関節構造』『関節可動域』について7割程度は説明できる。	『骨格筋の収縮メカニズム』『骨格筋の力学特性』『骨格・関節構造』『関節可動域』について6割程度は説明できる。	『骨格筋の収縮メカニズム』『骨格筋の力学特性』『骨格・関節構造』『関節可動域』について5割以下しか説明できないため、再学習が必要。
基本的な日常動作およびスポーツ動作について、身体特性を踏まえてキネマティクスおよびキネティクスで説明できる。	『身体重心』『立位姿勢』『歩行と走行』『跳躍』『反射とスキル』について全て説明できる。	『身体重心』『立位姿勢』『歩行と走行』『跳躍』『反射とスキル』について8割程度は説明できる。	『身体重心』『立位姿勢』『歩行と走行』『跳躍』『反射とスキル』について7割程度は説明できる。	『身体重心』『立位姿勢』『歩行と走行』『跳躍』『反射とスキル』について6割程度は説明できる。	『身体重心』『立位姿勢』『歩行と走行』『跳躍』『反射とスキル』について5割以下しか説明できないため、再学習が必要。
体幹および四肢における様々な外傷のメカニクスを説明することができる。	『スポーツ外傷とアライメント』『体幹の外傷のメカニクス』『四肢の外傷のメカニクス』『スポーツ外傷の応急処置』について全て説明できる。	『スポーツ外傷とアライメント』『体幹の外傷のメカニクス』『四肢の外傷のメカニクス』『スポーツ外傷の応急処置』について8割程度は説明できる。	『スポーツ外傷とアライメント』『体幹の外傷のメカニクス』『四肢の外傷のメカニクス』『スポーツ外傷の応急処置』について7割程度は説明できる。	『スポーツ外傷とアライメント』『体幹の外傷のメカニクス』『四肢の外傷のメカニクス』『スポーツ外傷の応急処置』について6割程度は説明できる。	『スポーツ外傷とアライメント』『体幹の外傷のメカニクス』『四肢の外傷のメカニクス』『スポーツ外傷の応急処置』について5割以下しか説明できないため、再学習が必要。
加齢に伴う動きの変化について説明することができる。	加齢に伴う『体力低下』『立位姿勢』『立ち上がり動作』『歩行』『障害物歩行』『階段昇降動作』について全て説明できる。	加齢に伴う『体力低下』『立位姿勢』『立ち上がり動作』『歩行』『障害物歩行』『階段昇降動作』について8割程度は説明できる。	加齢に伴う『体力低下』『立位姿勢』『立ち上がり動作』『歩行』『障害物歩行』『階段昇降動作』について7割程度は説明できる。	加齢に伴う『体力低下』『立位姿勢』『立ち上がり動作』『歩行』『障害物歩行』『階段昇降動作』について6割程度は説明できる。	加齢に伴う『体力低下』『立位姿勢』『立ち上がり動作』『歩行』『障害物歩行』『階段昇降動作』について5割以下しか説明できないため、再学習が必要。